

キリスト教信仰を土台に生活する喜びを導く

廣瀬 薫著

『羽仁もと子著作集』「信仰篇」 5 12



村山順吉

著者の廣瀬薫氏に初めてお目にかかったのは、自由学園のイースター礼拝に牧師としてお招きし、説教をしていたいただいた時のことであった。また、クリスマス礼拝にもお招きして、生徒、学生、教職員を含め聴かせていただいた者すべての心が豊かに養われる説教に、胸が熱くなったものである。廣瀬氏には礼拝の他にも、最高学部（大学部）では「自由学原論」の講義を担当していただいている。また、自由学園明日館公開講座や婦人之友誌の読者の会である『全国友の会』の、読書会の講師も務めておられる。

日本で最初の女性新聞記者であった羽仁もと子は、後と同じくジャーナリストであった夫、羽仁吉一とともに『婦人之友社』の創設、『自由学園』の創立、そして『全国友の会』の創立に力を注ぎ、その全ての働きに生涯をかけて熱心に取り組んできた。さらに、キリスト教信仰を基として自身が広く社会に伝えようとしたことを、全三十一巻（婦人之友社新版）に及ぶ『羽仁もと子著作集』に著している。

廣瀬氏は今までに『羽仁もと子著作集』の中から教冊を取り

上げて、公開講座や読書会で扱ってきた。それが『良く生きる手がかり』としてシリーズ化され、本書はその第十二巻である。本書は『羽仁もと子著作集第十五巻 信仰篇』を扱った五分冊の五番目にあたり、これをもって『信仰篇』は完結である。『信仰篇』は全体が一つの流れになっているので、廣瀬氏はそれを次のように大きく三つに分け、本書の内容は③の部分である。

- ①信仰論・何を信じるか、どのように信じるか、創造主を信じる立場に立つ世界観の全体像について。
- ②イエス・キリスト・人類に「新紀元」をもたらした誕生、生涯の本質、十字架と復活について。
- ③私たちの生き方…キリストを知った私たちは如何に生きべきか。人生の目的、力の源、実践について。

本書は、イエス・キリストの十字架に支えられていることに気付かされた私たちが、次にどのようにしたら本当の意味での「良く生きる」ことができるのか、「良く生きる」とは何なのか、それを羽仁もと子の信仰理解をより深く味わい、その真意を正當に理解することを通して求めていくための手がかりである。

それ故に、テキストとして様々な工夫がなされている。

『信仰篇』の「神の家族」から「使命の道」までを、少しずつ読み続けられるように二十九日分に分け、各日は四ページで構成されている。そして読者が受け身的な読み方や偏った読み方に陥らないように、質問の形で読者への問いかけがある。それを受けた読者自身が考えたことを、自分の言葉にして振り返りができるための欄も設けてある。

次に本文に引用されている、あるいは関連する聖書の箇所を示しながら解説を加え、その日ごとの、非常に励みとなるメッセージへと繋がっていく。メッセージは最後に祈りをもって語られるが、そこで終わらないのも本書の特徴のひとつであろう。読者がその日の「決心」を何かひとつ、自分で定められるように導いている。つまり本書は各日のテキスト全てが、イエス・キリストに救われる実感を与えられた後、それを実感だけに留めるのではなく、どのように生きるかという実践、言い換える

なら、キリスト教信仰を土台に生活する喜びにまで、しっかりと結びつけられるようになっていく。

羽仁もと子はキリスト教信仰を基とした、非常に熱のある生き方をもって、各方面に働きかけてきた。そして、聖書のみ言葉に支えられる者の、生き方の実践としての「生活」を大切にしてきた。このことは、現在の自由学園にもしっかりと受け継がれている。

廣瀬氏が羽仁もと子の生き方に共感を持って『羽仁もと子著作集』を深く読み解き、本書のような良書が刊行されたことは、誠に大きな喜びである。本書は単独でも十分な内容であるが、願わくは『信仰篇』とともに読みいただくことをお勧めする。また、既に「信仰篇」だけでなく著作集全巻を読破された方々にも、是非お勧めしたい良書である。

(むらやま・じゅんきち 自由学園理事長)

(A5判・二二八頁・本体一〇〇〇円十税・ヨベル)